

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立斐太高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年10月3日 (月) 14:00~16:00
- 3 開催場所 斐太高等学校 有斐会館 会議室
- 4 参加者

会長	水口 浩美	高山市国府支所次長
副会長	高村 正博	前育友会長
委員	坂井 歩	高山自動車短期大学学長
	長澤 志保	前育友会役員
	番場 さとみ	育友会役員
	廣田 早苗	有斐会副会長
	丸山 純平	飛騨ジモト大学事務局
	溝際 清太郎	株式会社駿河屋魚一代表取締役社長
	南 賢太郎	育友会長
	学校側	大野 貴司
	野中 明子	教頭
	石原 秀三	事務部長
	平野 昌之	教務部長 (教務主任)
	駒澤 誠二	進路指導部長 (進路指導主事)
	富田 喜友	生徒指導部長 (生徒指導主事)
	清水 潤	特別活動部長
	中川 鉄紀	探究活動推進部長
生徒代表	新屋 一樹	生徒会会長
	大田 結心	生徒会副会長
	新田 なな花	生徒会副会長
	長瀬 優獅	生徒会書記

5 会議の概要 (協議事項)

- (1) 前期の取組と今後の取組について～学校評価アンケートの結果を踏まえて～
(教頭より全体説明)

意見1: 肯定的な評価が下がっていることについて、今年度は「よくあてはまる」が減り「ややあてはまる」となっている。分析はどのようになっているか。

⇒昨年度とは回答の回収方法を変更したため、影響が出ているのではないかと考えるが、確かな分析ができていないのが正直なところである。

意見2: アンケートについては、昨年度の回答率と今年度の回答率を比べたときの差が回答の差になることがある。

意見3: アンケートが5段階評価となっているが、日本人の気質として、両端はあまり選ば

ないともいわれる。「よくあてはまる」を選ぶということはかなり肯定的な評価である。全体像を把握するという点では、肯定的か否定的かで捉えてもよい。

意見4：民間企業だと、働き方改革のために生産性や効率を追求している。学校では、どのように評価をしているか。教職員の教育はあるのか。

⇒教育ということでは各種の職員研修がある。それが生産性や成果として表れるかは難しい。

意見5：学校で生産性を追求するのが難しいのは理解できる。人数を増やすことも考えられる。

⇒生産性は、インプット3割、アウトプット7割が理想と言われるが、経験の浅い教職員はアウトプットするためにインプットに多くの時間がかかる。まじめに取り組んでいるからこそインプットに時間がかかると考えている。このバランスを目指してほしいことを伝えていきたい。

意見6：「まったくあてはまらない」が少数ではあるがどの項目にも必ず入っている。少数の回答であっても、救い上げてもらいたい。特に体罰に関する項目に「ある」と答えている生徒がいることには重点を置いて考えてほしい。

(各分掌より説明)

意見7：10月から自転車保険が義務化されたが、自転車通学の許可を出すときに加入を確認しているのか。

⇒入学時に全校生徒が全高P連の損害賠償保険に加入している。各家庭の判断で個別に他の保険に加入する生徒もいる。

意見8：観点別学習状況の評価についてはルーブリックのようなものと考えてよいか。評価については、生徒に不公平感を持たせることがないよう、どのように評価しているのかをエビデンスとして公表してはどうか。

⇒観点別学習状況の評価は今年度1年次生から行っている。前期が終わり初めてこの評価方法で成績が出る。評価方法を検討し確認したうえで、生徒に示す必要があるとは感じている。

意見9：デジタルネイティブ世代が増える中、特に匿名のアンケートで正直な否定的な意見がみられるが、肯定的な意見がまだまだ多いというのはすばらしい。

意見10：ボランティアだとか主体的な活動というところで、FRHでの活動を活かして村半と協力してボードゲームを行った本校の生徒が新聞記事で紹介されていた。様々な年齢の人が参加し大盛況であった。アウトプットしたときに成功することも失敗することもあるが、活動をやり切ったこと、高山(地域)でやりとげたことは一生の思い出になる。この活動のように、挑戦したいという生徒に寄り添って、地域でも連携してできることがあることはすばらしい。

意見12：18歳以上の生徒が投票できるようになったが、関心や思いはどういったものか。

⇒学校で期日前投票を行っている。7月の国政選挙より8月の高山市長選挙及び市議会議員補欠選挙の方が、身近で、関心を持ちやすかったのではないかと。生徒の様子から主権者教育の大切さを感じている。

意見13：体育祭での「黒団」(体育祭実行委員として企画や運営を行う団)について、運動が得意ではない生徒でも、活躍できる場となり、充実感を得られている。こういう役割で活躍できる場があることはありがたい。

(2) 生徒との意見交換

※委員からの質問と感想のみ掲載

質問1：学校に誇りを持てるのはすばらしいことである。本校のよいところは何かと考えるか。

- 質問2：卒業後は大学進学等で地区外に出ると思うが、大学卒業後、飛騨地区に戻る気持ちや、飛騨地区を大切にしたいという思いはあるか。
- 質問3：周りで外国に行きたいと思っている人はいるか。
- 質問4：学校評価アンケートで、「働き方改革に努めている」という設問に「わからない」という回答が多いが、「働き方改革」の意味がわからないのか、教職員が働き方改革をしているのかわからないのか、どちらだと思うか。
- 質問5：働き方改革が言われる中で、生徒の目から見て、教職員の仕事で大変だと思うことはあるか。
- 質問6：困っていることはないか。高校生活を楽しくしたり、充実したりするのに、学校内だけではなく、町もこんなことがあったらとか、こんな大人がいたらと思うことはあるか。
- 質問7：生徒会の役員になって、何をしたいと思ったか。なぜ生徒会の役員になったか。
- 質問8：今後の日本、将来の日本について思いがあったら教えてほしい。
- 感想1：本校の生徒としてのプライドや、なりたい自分をもって話してくれていることは、卒業生としてもうれしい。
- 感想2：実際に外国に行かなくても、大学に行ったら多国籍の人と交流し、違った文化に触れればプラスになる。ぜひ、経験してほしい。
- 感想3：教職員が、我慢してというわけではなく、生徒と一緒に授業をすることが、とても楽しくて、誇りに思っているということが伝わった。
- 感想4：学校運営協議会は昨年度から行われており、様々な立場の地域の大人が、教職員とともに本校のことを考えている。この会のことを知ってもらいよい機会となった。
- 感想5：1年生の2月末からの新型コロナウイルス感染症の影響で満足に行事できないまま卒業した学年がある。残念だった学年のことを思っ、目一杯行事も楽しみながら学校生活を送ってほしい。
- 感想6：在校生が学校の中から学校をよくしようとしてくれることが分かった。

(3) 後期の学校運営等について

- 意見1：生徒会が考えていることを学校と話すことができる機会を設けてもらおうとよい。生徒の実感を大切にしてほしい。希望していることで叶わないことがあっても、理由がわかれば理解できる生徒である。設備投資のことについては、和式トイレを洋式トイレにする要望のほかに、手洗い場の数のことも話してくれ参考になった。
⇒体育館のトイレについては、高山市の避難所となっている関係での計画はあるとのこと。
- 意見2：トイレの改修について育友会の特別会計でも検討できる。
- 意見3：生徒が発言していたことを学校に伝える場はあるか。
⇒前期に生徒会が校長と語る会があるが、後期はまだ行っていない。
- 意見4：普段から意見がでて自分たちでも解決していくというルーティーンができると、リーダーシップを育成し、自己実現を果たすことにつながる。
- 意見5：本日は議題がフォーカスされていなかったが、十分、生徒と議論できると感じた。議題を絞り一緒に考えるという場を設けることができるともっと有用な議論ができる。さすが本校の生徒だと感じた。教職員も生徒も忙しいと思うが、実現するとうれしい。
- 意見6：生徒の要望は、衣食住に関するところで、基本的なところに不満があると思った。食に関していうと、需要と供給の問題はあるが、例えば、簡易食品の自動販売機もある。方法を考えれば、具体的に導入を考えていくことはできる。
- 意見7：匿名アンケートではその後の追跡調査が難しいが、体罰についてなど、気になる回

答はさらに細かく調査するのがよい。アンケート結果の分析は、時に教職員側から見た判断となり都合よく解釈されその解釈に基づいて目標が設定されることもある。正しく分析するためにも、さらに絞ったアンケートを生徒に行う必要がある。
⇒さらに調査することは大切だと考える。体罰についてやいじめについては県からのアンケートもある。利用できるものは利用し、学校独自のアンケートも行っていきたい。

6 会議のまとめ

- ・今回初めて生徒代表が出席し、生徒の立場から学校に対する思いや要望を話した。実際に生徒と意見交換した委員から、学校としてこういった生徒とどのように接し、生徒のためにどのように学校を運営していけばよいかについて、具体的な意見や提言を得ることができた。また、学校は生徒を育てる場であるとともに、生徒が生活をする場でもあることにあらためて気づかされる会となった。今回の生徒の要望等については、意見にもあったように、生徒の主体性を尊重しながら、共に考え、学校運営に生かしていきたい。ぜひ、また、このような熟議の機会を設けたい。